



2. デュアルユース問題

BMI 倫理4原則

BMI 倫理4原則

- 原則1** 戦争や犯罪に BMI を利用してはならない
- 原則2** 何人も本人の意思に反して BMI 技術で心を読まれてはいけない
- 原則3** 何人も本人の意思に反して BMI 技術で心を制御されてはいけない
- 原則4** BMI 技術は、その効用が危険とコストを上回り、それを使用者が確認するときのみ利用されるべきである

心・能力を読む技術の現在

- fMRIから見ている画像、映像再構成
- 思い描いているだけ、夢もすでに実現
- 科捜研、科警研
- 嘘発見器は実用になっていない
- コミュニケーションに障害がある方のためには心を読んであげる必要
- 読まれたくない心を読むのは技術的に乗り越えるハードル多数
- 自発脳活動や解剖画像から求めた脳内の結合パターンから年齢、疾病、能力を予測

心を操作する技術の現在

- 脳深部刺激は心を操作する可能性はある
- 非侵襲刺激（脳の中に機器を入れない場合）は、TMS, TDCSがもっとも有力
- オプトジェネティクスは研究手法としては大流行
- デコーデッドニューロフィードバック、コネクティビティフィードバックで新展開
- 精神疾患、神経疾患、発達障害などの革新的な治療法を提供できる可能性、ただし心を操作すると解釈もできる

BMIデュアルユース問題

- 医療、福祉、経済活性化
- 脳情報解読
- 脳情報の制御
- 完全埋め込み無線システムによる安全性
- 精神・神経疾患の革新的な治療法
- 神経倫理
- 米国初期の研究支援はDARPA
- 軍事利用、犯罪、野放図な経済優先
- マインドリーディング
- マインドコントロール
- ハイテク被害者の会
- 第2のロボットミー、電気痙攣療法
- 予測困難